

作業部会D（認知症施策との連携）

第2回 認知症の支援に関する意見交換会

～認知症サポート医～

演題①：『認知症サポート医の役割と認知症初期集中支援チームについて』

講師：城間クリニック 認知症サポート医 院長 城間 清剛 氏

演題②：『認知症診療・支援における現状と課題とこれから』

～認知症疾患医療センター事業を通して～

講師：サマリヤ人病院 認知症疾患医療センター精神保健福祉士 山川 ゆかり氏

○日 時：令和4年10月20日（木） 午後7時00分～8時30分

○場 所：Zoom を使用してのオンライン意見交換会

○参加者：22名

（認知症サポート医10名、認知症地域支援推進員4名、その他（委員含む）8名）

【背景】那覇市には31名の認知症サポート医がいるが、支援者と顔の見える関係に至っていない。

【目的】認知症の方が地域で不自由なく暮らしていくようなサポート体制と仕組み作り

【対象】認知症サポート医、地域包括支援センター（代表）

【方法】ZOOMでの講演、グループワーク（地域で共通する事例について協議）

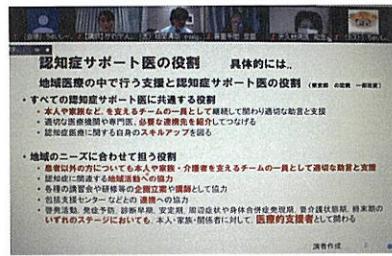
【結果】アンケートを参照下さい

【考察】認知症サポート医の参加者は10名であった。うち、第1回開催と両方参加した医師は8名である。周知に力を入れているが、現状の参加者は1/3に留まる。

「明日からの業務に活かせるか」には「とても活かせる、活かせるが100%（回収率77.2%）であった。今後、意見交換会を重ね着々とネットワーク作りを推進していきたい。



講師：城間 清剛 氏



司会：長嶺 勝 氏



講師：山川 ゆかり 氏



コメント：平良 直人 氏

令和4年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業【認知症施策との連携】
『第2回 認知症の支援に関する意見交換会(ZOOM)～認知症サポート医～』アンケート結果

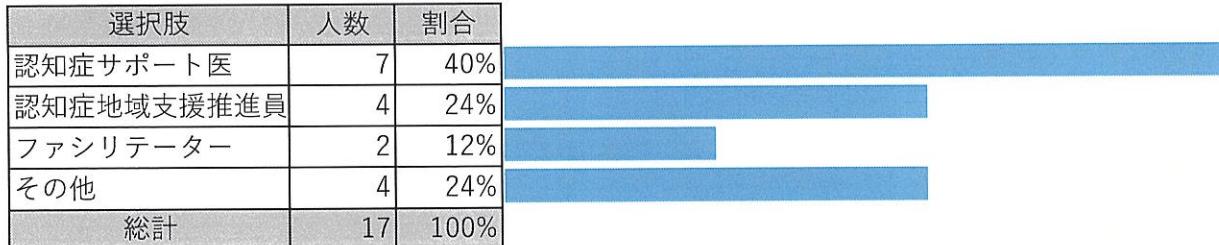
日 時： 令和4年10月20日（木） 19:00～20:30

場 所： Zoomによるオンライン研修会

参 加 者： 22名（認知症サポート医：10名、認知症地域支援推進員：4名、その他：8名）
※同席者含む

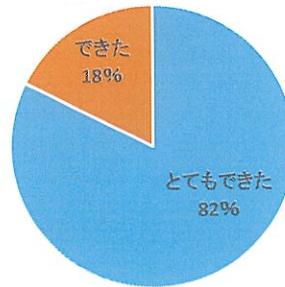
アンケート回答者数： 17名 回答率： 77.2%

1. 職種の内訳



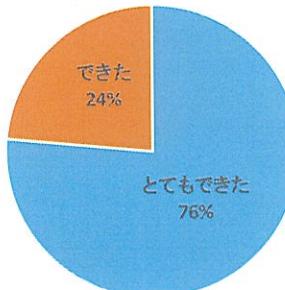
2. 演題『認知症サポート医の役割と認知症初期集中支援チーム（城間クリニック 城間 清剛先生）』について理解できましたか。

選択肢	人数	割合
とてもできた	14	82%
できた	3	18%
まあまあできた	0	0%
できなかった	0	0%
総計	17	100%



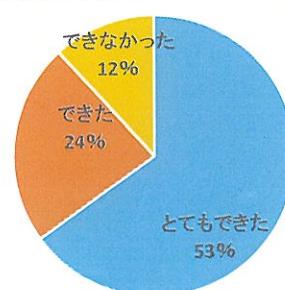
3. 演題『「認知症診療・支援における現状と課題とこれから」～認知症疾患医療センター事業を通して～（サマリヤ人病院 山川 ゆかり 氏）』について理解できましたか。

選択肢	人数	割合
とてもできた	13	76%
できた	4	24%
まあまあできた	0	0%
できなかった	0	0%
総計	17	100%



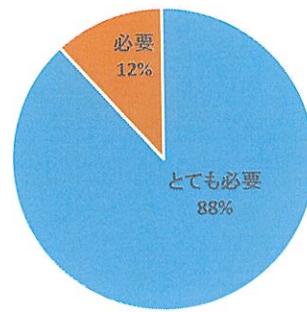
4. グループワークではテーマについて話し合うことができましたか。

選択肢	人数	割合
とてもできた	11	65%
できた	4	23%
まあまあできた	0	0%
できなかった	2	12%
総計	17	100%



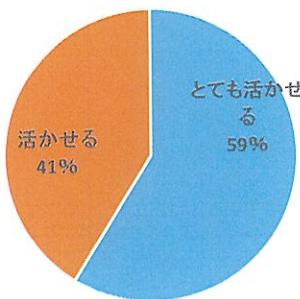
5. 今後、このような会が必要だと感じますか。

選択肢	人数	割合
とても必要	15	88%
必要	2	12%
まあまあ必要	0	0%
必要ではない	0	0%
総計	17	100%



6. 明日からの業務に活かせそうですか。

選択肢	人数	割合
とても活かせる	10	59%
活かせる	7	41%
まあまあ活かせる	0	0%
活かせない	0	0%
総計	17	100%



7. 今回の意見交換会の全体を通して、ご意見・ご感想等をお聞かせください。

○最後に平良先生がおっしゃったことが残りました。

こうした会でお互いが顔見知りになることが大切。

私もそう思います。なのでコロナが許せば対面の会も必要だと思います。

○先生方は包括の業務も知りたいと考えて頂けている様子。

これを機に今一度包括支援センター業務について、お伝えしたいと感じました。

また、包括での医療へつなげるための苦労話を先生方にも聞いていただきたい。(相談員さんへは切々と訴えるのですが….)どうすれば、この人らしい生活が継続できるのか?のお知恵を借りたい。そんな気持ちになりました…先生方も理解してくれようとしている、という姿勢が今日は感じられ、とてもうれしかったです!

○認知症の地域支援における、訪問看護(介護保険、医療保険それぞれ、精神科訪問看護と一般科の訪問看護それぞれ)、即日利用できる訪問看護の様子や活用の仕方など、訪問看護ステーションからの発表や事例紹介があると、いいなと思いました。

可能な範囲で、参加者の名刺交換(メルアド交換・提示)があると、いいなと思いました。

那覇市の初期集中支援チームからの、発表もあると良いと思います。

機器の不具合で、音声がでない参加者がいらっしゃいました。参加者全員の音声チェックも事前にしていただけすると良いと思います。

○本日はありがとうございました。

先生方が、地域のサポート医としてどのように患者さん方と向き合っていらっしゃるのか直接お話を聴く機会を得ることができてとてもよかったです。

グループワークも人数が少ないこともあります。名前やお顔をしっかり確認させて頂きながらお話ができたことで少し顔見知りの関係ができたような気がします。このくらいの人数が良いかと思いました。

近隣の医療機関の皆様が同じグループだったので、実際にお会いできた時にお話や相談しやすくなるのではないかと思います。

包括の職員として初めに相談させて頂くのはPSW等相談員さんになるため、今回サマリヤ人病院の山川さんや城間さん、天久台病院の知念さんが参加されていたのが良かったです。

一番最初の窓口になって下さる方との顔の見える関係はとても大切と感じます。私たちがサポート医の先生に最初に直で相談することはなかなか出来ないかと思いますので(これから出来るようになりますかね)、各医療機関の窓口となる方との情報交換、意見交換も、できる機会が今後あると良いかと思いました。

○先生方の視点がイメージでき、とても有意義なGWでした。

医療の視点と生活を見る包括が連携することで、ご本人の生活を支えるが、介護保険サービスまでのつなぎとしての訪問看護の活用も本人を支えるうえでは重要、どう支えるかはいろいろあると考えさせられました。

○サポート医のネットワークってあるのでしょうか。

○このような機会があると連携も取りやすくなると思いますので、継続を希望します。

○症例報告、実際のお困り例等のアプローチも聞いてみたいです。

○グループワークは所用があり参加できず、申し訳ありませんでした。このため、話し合うことは出来なかつたとチェックを入れております。今後ともよろしくお願ひいたします。

○グループワークで充分な議論ができず、もったいなかつたです(進行者の簡単なマニュアルがあつてもいいかもしれません)。サポート医2人で見学者が多くつたので、運営側も発言した方が、より学びになると感じました。

次回は、サポート医の先生方の困り事や必要な情報を聞きして、研修の内容を企画してもいいと思います。とてもいい機会を頂きました。ありがとうございました。

○サポート医と認知症疾患医療センターとの連携体制をしっかり組織化する必要が有ると思いました。

○ファシリテーターということで参加させて頂きましたが、同じグループにファシリテーターが2名となつていて、今回は中尾さんに進行をして頂きました。進行はスムーズで私はとても助かりましたが、中尾さんには負担をかけてしまつただろうなと思います。

同じグループにファシリテーターが2名いる場合は、事前にどの様に進めていくかを話し合えていたら良かったなと思いました。

○これまで殆ど関わりがなかった先生方の話を伺うことができて良かったと思います。

今後、対応に困ったときに相談したいと思いました。ハードルが下がつた感じです。

ありがとうございました。

○日頃考えていること、行っていることが、その方針でいいかを皆さんに相談出来る機会があることは大変ありがとうございます。医師、そのほかの職種、認知症への関わり方はそれぞれと思いますが、市民、県民が安心できる環境づくりに皆さんと力を合わせてサポート医としても関わっていきたいと思います。

8. 受講時、同席者は何名いらっしゃいましたか。

選択肢	人数	割合
同席者はいない	15	88%
1名	2	12%
2名	0	0%
3名以上	0	0%
総計	17	100%

